

§ はじめてのSFX §

本書はSFXを初めて使用される方のためにかかれています。

○最初に

本機にはノーマルモードはありません。ただし、他人に使用されないようにするため、死んだふり機能があります。死んだふり機能の状態では、メモリー操作のキー以外は、受け付けなくなります。PTTや、モニターがききませんので、無線機としては使用できなくなります。同時に、安心ロックがかかります。安心ロックとは、640RSと同様に、暗証番号を知っている人だけがスペシャルを使用できるようにする機能です。暗証番号がわかりませんと、スペシャル状態にできませんので忘れないようにしてください。

○最初にスペシャルモードにします。

MONキーを押して、ピッという音と同時に、CHが表示されれば、スペシャル状態にすでになっています。スペシャル状態でない場合は、以下の操作により、スペシャルにしてください。

M + 0 + C + (暗証番号) + HOLD => oSEt- の表示となる

この時、ATIS ROMカートリッジが挿入されていれば、自局の免許番号はその免許番号になります。

○安心ロックをセットします。

スペシャル状態を他人に知られたくない場合、セットしますと、無線機としての機能を停止します。暗証番号がわからないとスペシャル状態に戻せなくなります。

HOLD + REMOTE => 群番号表示

モニター、レディ中でも、リセット状態になります。

○最初から、使用できるスペシャル機能。

- 1, モニターに移る際、CH表示をします。 例、 i 35 ダウンモードの 35 CH
- 2, モニターから、PTTを押すことにより、割り込み送信できます。
- 3, 5分、1分の通話制限はありません。ただし、相手の局が通話制限状態になったとき、相手局だけリセットしてしまわないように、表示パネルの、1-MIN, LOCALのランプに注意してください。
- 4, リセット、モニター、レディ、送信中のどの状態からでも、メモリー、群番号の打ち代えができます。
- 5, 0から9の数字以外の特種文字番号が、打てます。”C”に続く次のキーです。

C => A M => b HOLD => c CALL => d

マイクの REM => E マイクの END => F

例 GBの真っ黒群番号 C + C + C + C + C + C => AAAAA

- 6, リセット状態の時、マイクのリモートキーにより、すべてのメモリー、及び、特种群コードの呼び出しができます。

呼び出される順序は、メモリー0=>1=>2=>. . . 9=>P-CODE=>H-CODE=>L-CODE
=>A-CODE=>B-CODE=>E-CODEの順です。

- 7, 呼び出し、着信の時、群番号とCHを交互に表示します。
- 8, モニター、レディ、送信中に、CHの確認ができます。 ”CALL” キーを押すと、表示されます。

○ 数字キーについて

数字キーは、ノーマルの場合、待ち受けの設定、解除をダイレクトに入力するために使用されましたが、SFXでは、完全16面待ち受けのため、キーが足りずに、別方法となっています。

数字キーについては、GⅡSFXに準じています。

1 から 6 のキーには、CH及びモードを動かす機能があります。

7 から 0 のキーには、リザーブに関する機能があります。

キーパネルの各機能		
現在のCHより -1 CHダウン 1	現在のモードより +1 モードアップ 2	現在のCHより +1 CHアップ 3
現在のCHより ハーフCHダウン 4	現在のモードより -1 モードダウン 5	現在のCHより ハーフCHアップ 6
リザーブを ひとつ戻す 7	リザーブを 呼び出す 8	リザーブを ひとつ送る 9
リザーブに 記憶させる 0	C	M

GⅡSFXでは、CHのアップダウンに、マイクのキーが使用できませんでしたが、GⅢSFXでは、可能になっています。そのほかの機能的な面は、殆どGⅡSFXと同等です。

こんなつかいかた

CHが、ハーフずつ移動できることを利用して、他の無線機が周波数がずれていた場合、基準となる周波数より、高いのか、低いのか、簡単なチェックができます。

ただし、SFXの周波数を、きちんと合わせておく必要があります。
購入された販売店で定期的に点検されるとよいでしょう。

◎ HOLDの機能一覧表

HOLD + 1 + 1	= ON→スキャンスピード高速	OFF→スピード低速
HOLD + 1 + 2	= ON→全モードスキャン	OFF→単一モードスキャン
HOLD + 1 + 3	= ON→メモリスキャン	OFF→順番CHスキャン
HOLD + 1 + 4	= ON→空きCHスキャン	OFF→使用CHスキャン
HOLD + 2 + 1	= ON→全モード待ち受け	OFF→単一モード待ち受け
HOLD + 2 + 2	= ON→スペシャルサーチ	OFF→普通のサーチ
HOLD + 2 + 3	= ON→リザーブ機能ON	OFF→リザーブOFF
HOLD + 2 + 4	= ON→全群番号リザーブ	OFF→一致した群番だけリザーブ
HOLD + 3 + 1	= ON→PTTリコール1分	OFF→PTTリコールなし
HOLD + 3 + 2	= ON→PTTリコールいつも	OFF→1分以上握っていればリコール
HOLD + 3 + 3	= ON→多群番リコール	OFF→普通のリコール
HOLD + 3 + 4	= ON→タイマーリコール	OFF→普通のリコール
HOLD + 4 + 1	= ON→受信感度低減	OFF→受信感度最大
HOLD + 4 + 2	= ON→送信出力低減	OFF→送信出力最大
HOLD + 4 + 3	= ON→ローカルモード	OFF→制限なし
HOLD + 4 + 4	= ON→1分通話モード	OFF→制限なし
HOLD + 5	= ON→ATIS信号カット	OFF→ATIS信号出る
HOLD + 6	= ON→群番解読	OFF→群番解読しない
HOLD + 7	= ON→制御CH妨害	OFF→妨害しない

HOLD + 8	= ON→80CHモード	OFF→158CHモード
HOLD + 9	= 切断信号の送信(ただし、通話CHのみ可能)	
HOLD + C	= 目覚し時計機能	
HOLD + M	= ON→タイマーカット	OFF→タイマー動作
HOLD + HOLD + 0 から 9	= 群番号コピー	
HOLD + HOLD + HOLD	= 免許番号吸い取り	
HOLD + HOLD + MON	= 自局の免許番号表示	
HOLD + HOLD + CALL	= 相手の免許番号表示	
HOLD + MON	= ON→全群番号待ち受け	OFF→待ち受け群番号だけ
HOLD + CALL	= ON→免許番号待ち受け	OFF→群番号の待ち受け
HOLD + REMOTE	= 死んだふり機能	
HOLD + MIC END	= HOLDから抜ける	
HOLD + END	= HOLDから抜ける	

○ HOLD の操作方法 その2 HOLD+1~4について

HOLD に続いて、1~4のキーを押しますと、今まで **F** と表示されていた部分が、数字に変わります。

本機は、機能が増えたため、HOLD 1~4は、二段設定になっています。
HOLD 1~4まで、それぞれに、1~4のセットを設定しています。

HOLD + **1** => **1**

↑

HOLDを押しただけでは、**F** の表示だった左の桁に、1~4の数字が表示されます。
この時、二回目のキーを受け付けます。また、RESETキーで中止できます。

HOLD + **2** => **2**

HOLD + **3** => **3**

HOLD + **4** => **4**

上記と同様に、1つのキーの中に、
4つの機能がセットされるようになっています。

○ 例

↓ ↓ ↓
↓ つ ↓ ↓
↓ づ ↓ ↓
↓ け ↓ ↓
↓ て ↓ ↓
↓ 操 ↓ ↓
↓ 作 ↓ ↓
↓ し ↓ ↓
↓ ます ↓ ↓
↓ ↓ ↓

HOLD => **F**

=HOLD+5~8は、セット なし

1 => **1**

=HOLD+1のなかは、セット なし

1 => **1 1**

=HOLD+1+1 が、セット された

3 => **1 1 3**

=HOLD+1+3 が、セット された

1 => **1 3**

=HOLD+1+1 が、解除 された

RST => **群番号表示**

=HOLDの作業から抜けた

上記のような操作手順により、HOLD 2段セットを行ないます。

◎ スペシャル機能をすべてOFFとする。

先程と同様に、スペシャル機能をまずOFFにしてから使用されるとよいでしょう。

HOLD + **1** => **1 1 2 3 4**

= HOLD 1の中のどれかが表示されている場合、
そのキーを押して表示を消します。

RST => **群番号表示**

= HOLD 1の中がすべて消えたところで、
RSTキーで、HOLDを抜けます。

HOLD + **2** => **2 1 2 3 4**

= HOLD 2の中の場合も同様に行ないます。

以上の操作を、HOLD+3, 4についてもおこないますと、取り合えず、
設定解除のできるスペシャル機能については、すべてOFFとなります。

◎ CHについて

キー操作によるCH設定の場合は、01CH~158CHまで、可能です。

(モニタースキャンの場合は、02CH~158CHまでです。)

ただし、制御CH(01CH)の送信はできません。また、モード5,6,7は、極度に周波数が離れているため無線機本体の性能により、送信できない場合があります。また、送信していても、安定した電波であるかは不明です。このため、この周波数帯での送信は、極力行なわないでください。終段パワーモジュールの故障の原因ともなります。

◎ モードの切り替え

モードの切り替えは、2 または、5 のキーを使用して瞬時に切り替えられます。

操作は、リセット中、モニター、レディ、送信中、いずれからでも可能です。

◎ CHの切り替え

CHの切り替えもモードと同様、1、3、4、6 のキーで瞬時に切り替えられます。

◎ 最近の900MHz帯の様子

パーソナル無線も、もう、5年の歴史がありますが、最近になって特に、OFFバンドに対する取り締まりが強化されてきているようです。驚くことは、このGⅢSFXのバンドの状態、6、7モードあたりで自動車電話入感してくることです。自動車電話は、もっと下の周波数から割り当てがあるはずですので、このあたりの周波数まで使用しているとなると、相当の加入者数になっているものと思われます。うらをかえせば、それだけお金をかけて電波を使用している局が多くなってきているということです。

また、アップモードにあたる、MCA局の加入数も、相当伸びているようです。

このため、多大の費用をつかって運用している局が多くなるため、特に、パーソナル無線の、OFFバンドに対する取り締まりが厳しくなっています。なにしろ、パーソナルは、彼等にとっては、ただの遊びですから。

あえて、OFFバンドは、送信禁止状態にはしません。いつでも電波は出る。その時になって出ないのでは話にならないとおもいます。ただ、どこで使うかだと思います。


各自十分自覚をもって、この、GⅢSFXを運用してください。

モード0	—— ノーマルモード	————— 903~905MHz	—— ノーマル
1	—— ダウンモード	————— 901~903MHz	} 現在割り当てなし
2	—— Wダウンモード	————— 899~901MHz	
3	—— トリプルダウンモード	————— 897~899MHz	
4	—— フォースプライベートモード	————— 895~897MHz	
5	—— ファイブプライベートモード	————— 893~895MHz	
6	—— シックスプライベートモード	————— 891~893MHz	} 自動車電話がぼちぼち使用中
7	—— どん底モード	————— 889~891MHz	

新モードについて

80/
158

新モード 158CHは、以下のCH配列となっています。

1		2	81	3	82	4	83	5	84	6	85
7	86	8	87	9	88	10	89	11	90	12	91
13	92	14	93	15	94	16	95	17	96	18	97
19	98	20	99	21	100	22	101	23	102	24	103
25	104	26	105	27	106	28	107	29	108	30	109
31	110	32	111	33	112	34	113	35	114	36	115
37	116	38	117	39	118	40	119	41	120	42	121
43	122	44	123	45	124	46	125	47	126	48	127
49	128	50	129	51	130	52	131	53	132	54	133
55	134	56	135	57	136	58	137	59	138	60	139
61	140	62	141	63	142	64	143	65	144	66	145
67	146	68	147	69	148	70	149	71	150	72	151
73	152	74	153	75	154	76	155	77	156	78	157
79	158	80									

◎ M キーの機能一覧表

$\boxed{M} + \boxed{0}$ から $\boxed{9}$	=	メモリーの指定及び呼び出し
$\boxed{M} + \boxed{HOLD} + \boxed{0}$ から $\boxed{9}$	=	チャンネルメモリーの書き込み
$\boxed{M} + \boxed{MON} + \boxed{0}$ から $\boxed{9}$	=	チャンネルメモリーの呼び出し
$\boxed{M} + \boxed{CALL} + \boxed{0}$ から $\boxed{9}$	=	メモリー0からメモリー9の待ち受け設定、解除
$\boxed{M} + \boxed{CALL} + \boxed{C}$	=	P-CODEの待ち受け設定、解除
$\boxed{M} + \boxed{CALL} + \boxed{M}$	=	H-CODEの待ち受け設定、解除
$\boxed{M} + \boxed{CALL} + \boxed{HOLD}$	=	L-CODEの待ち受け設定、解除
$\boxed{M} + \boxed{CALL} + \boxed{CALL}$	=	A-CODEの待ち受け設定、解除
$\boxed{M} + \boxed{CALL} + \boxed{MIC\ REMOTE}$	=	B-CODEの待ち受け設定、解除
$\boxed{M} + \boxed{CALL} + \boxed{MIC\ END}$	=	E-CODEの待ち受け設定、解除
$\boxed{M} + \boxed{MIC\ REMOTE}$ + 12回のキー入力	=	免許番号の書き換え

◎ MON キーのCH指定方法

\boxed{MON}	=	リセットの場合は、前回使用のCH モニターの場合は、スキャン
$\boxed{C} + \boxed{0}$ から $\boxed{9} + \boxed{MON}$	=	メモリーCHの呼び出し
$\boxed{C} + \boxed{0}$ から $\boxed{9}$ のキー2回 + \boxed{MON}	=	キー入力のCHへモニター
$\boxed{C} + \boxed{1} + \boxed{0}$ から $\boxed{9}$ のキー2回 + \boxed{MON}	=	キー入力のCHへモニター

◎ CALL キーの機能

リセット状態では、自動呼び出し その他の状態では、CH表示

◎ リザーブメモリーについて

- リザーブメモリーとは、一種の裏メモリーです。SFXでは、1280にも増えたすべてのCHを、十分有効に使用するのには、困難なほどになりました。そこで、リザーブメモリーを活用すれば、ある程度のCH、群番の管理を機械に任せてしまおうというものです。
- リザーブできる数は、8個までです。9個目を入れますと最初の1個が消されてしまいます。
- 群番、CH、モードまでをワンタッチで記憶できてしまう便利な機能です。
あらかじめセットしておき、CHからCHへ、瞬時のQSY（CH移動）に、また、多数のグループとの掛け持ちQSOも、らくらくOKです。
- リザーブメモリーの使い方としては、以下の4とうりをもっとも便利と思われる。
 - 1、リセット待機中、呼ばれた群番、CH、モードを記憶して、リセット状態を続ける。
 - 2、リセット待機中、群番解読で、次々表示される群番をためておき、希望の群番号のところまで、後戻りさせる。
 - 3、モニターサーチから、スペシャルサーチを行ない、待ち受けと同じ群番を見つけたら、その群番、CH、モードを記憶して、スペシャルサーチを続ける。
 - 4、自分であらかじめ、リザーブメモリーに記憶しておき、そのCH間を自由に行き来する。

以下に、それぞれの機能の組み合わせ方法を例として記します。
なお、スペシャル機能は、すべてOFFの状態からセットするものとします。
また、群番号の、メモリー及び、待ち受けの設定はされているものとします。

○1、リセット中の留守番機能

まず、タイマーは動作させます。

HOLD

 +

M

 =>

ヒ	-	00
---	---	----

 (CUTの表示の場合は再度行なう。)

自動リザーブ機能を、ON にします。

HOLD

 +

2

 +

3

 =>

2	3
---	---

以上をセットしてリセット待機すれば、自動的に呼び出しを受け30秒後にその群番、CH、モードを記憶しリセット状態に戻ります。

○2、リセット中の群番戻し

自動リザーブ機能を、ON にします。

HOLD

 +

2

 +

3

 =>

2	3
---	---

全群番号リザーブ機能を、ON にします。

HOLD

 +

2

 +

4

 =>

2	34
---	----

群番号解読機能を、ON にします。

HOLD

 +

6

 =>

F	6
---	---

以上をセットしてリセット待機すれば、次々表示されてくる群番号を、後戻りさせて、そのCHに行くことができます。ただし、9個以上前の信号は戻せません。

7

 のキーを押すことにより、たまっていた群番号が表示されます。

○3. スペシャルサーチリザーブ

スペシャルサーチ機能を、ON にします。 HOLD + 2 + 2 => 2 2

自動リザーブ機能を、ON にします。 HOLD + 2 + 3 => 2 2 3

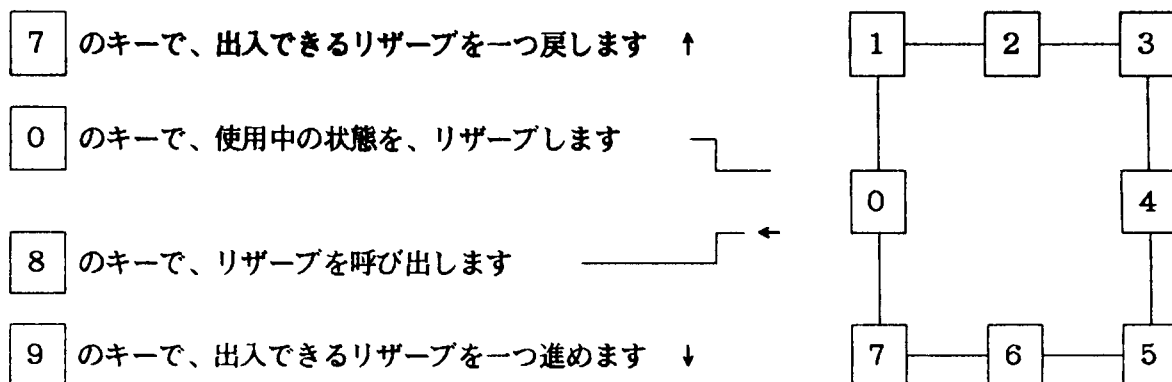
群番号解読機能を、ON にします。 HOLD + 6 => F 6

以上をセットして、モニターサーチをかければ、待ち受け群番と、同じ群番のCH、モードを記憶して行きます。なお、リセットをかけるまで行ないますので、出かけている間に、仲間のいるCHを調べておけます。

◎ リザーブメモリの仕組み

リザーブメモリーには、0～7までのナンバーがついています。

リザーブメモリーは、そこにデータが書き込まれると、自動的にナンバーを一つ進め、次のデータに備えます。



リザーブ関係の操作を行なった場合、 c = □ = c の表示がされます。

これは、現在、中央に表示されたナンバーのリザーブに入出力可能という意味です。

◎ リザーブを呼び出す

普通の状態、 7 と 9 のキーを押すと、 c = □ = c のような表示が出て、群番号が出ます。

ただし、上の中央の数字は、現在のリザーブのナンバーを表わしていますので、0～7までのどれかです。

7 と 9 のキーで、呼び出したいリザーブNo. または、群番号が表示された時に、 8 のキーを

押します。すると、リザーブされていたCHに移ります。また、PTTを押すと、自動的に

リザーブされていた群番号になっています。

通話が終わって、リセットしますと、リザーブを呼び出す前の群番号にもどります。

リザーブを呼び出しても、0～9のメモリーは、壊されることはありません。

◎ リザーブに記憶させる

ここでは、自分の希望する群番，CH，モードを、指定したリザーブに記憶します。

A まず、機械が勝手にリザーブ機能を動作させないように、自動リザーブを止めておきます。

HOLD + 2 + 3 . . . => 2 12 4 3が消えるようにする

B 適当な群番号，CH，モードにする。

C 記憶させたいリザーブNo.にする。 7 と 9 のキーを押して、すきなNo.にする。

D 0 のキーを押す。=>リザーブNo.を表示して、群番号表示に戻る。

以上でリザーブへのメモリーが行なわれました。
以降は、いつでもリザーブさせたNo.にして、8 のキーを押せば、
そのCHに群番号もあわせて移動します。

○ 各状態による、マイクのキーの機能

マイクのREMOTE，及びENDの機能は、無線機の状態により、変わります。

REMOTEキー

リセット	—————	メモリー呼び出し
固定モニター	—————	-1CHモニター
サーチ一時停止中	———	そのCHを固定
レディ	—————	連続リコール
サーチ中	—————	-1モード
HOLD機能中	—————	死んだふり

ENDキー

リセット	—————	+1CHモニター
固定モニター	—————	リセット
サーチ一時停止中	———	サーチ続行
レディ	—————	リセット
サーチ中	—————	+1モード
HOLD機能中	—————	HOLD機能から抜ける

サーチの一時停止中とは、MONのランプが点滅している状態で、
タイマー又はATISの信号を待っていて、つぎのCHに移動する状態のことです。

9, リセット状態の時、CALLに続いてキーを押すことにより、すべてのメモリー、及び、特種群コードの自動呼び出しができます。

CALL => [] + [0] から [9] までのキー => そのメモリーされている群番号で呼び出し

CALL => [] + [C] => P-cod 交通情報用群番号 (F0000)

CALL => [] + [M] => H-cod 高速道路通信用 (F0003)

CALL => [] + [HOLD] => L-cod 近接車通信用 (F0005)

CALL => [] + [CALL] => A-cod Aコード (F0006)

CALL => [] + [マイクREMOTE] => b-cod Bコード (F0009)

CALL => [] + [マイクEND] => E-cod 緊急通信用 (FF000)

10, すべてのメモリー、特種群番号の、待ち受けセット、解除が、独立して行なえます。

Mキーに続いて、CALLキーを押しますと、待ち受けのセット、解除のモードに、なります。

[M] + [CALL] => [PHLRb] 例として、左記のように表示されれば、P, H, L, A, B, のコード群番号が、待ち受けセットとなっています。

この状態から、1から9までの数字キーを押すと、数字キーのランプが点燈、消燈を交互に繰り返します。点燈した状態で、その、メモリーに記憶されている群番号の待ち受けがセットされます。

メモリー0の待ち受けの場合は、C-MEMのランプが点燈、消燈します。

また、特種群番号の場合は、下記の要領で設定します。

[M] + [CALL] + [C] => [P] Pの部分が、点燈、消燈します。

[M] + [CALL] + [M] => [H] Hの部分が、点燈、消燈します。

[M] + [CALL] + [HOLD] => [L] Lの部分が、点燈、消燈します。

[M] + [CALL] + [CALL] => [A] Aの部分が、点燈、消燈します。

[M] + [CALL] + [マイクREMOTE] => [b] bの部分が、点燈、消燈します。

[M] + [CALL] + [マイクEND] => T-LIMの赤いランプが、点燈、消燈します。

いずれの場合も、点燈した状態で、待ち受けセットとなります。

また、自分で最後に表示した群番号は、上記の操作に関係なく、常に待ち受け状態となります。

メモリー0から、メモリー9まで、特種群番号6種類で、あわせて、16局待ち受けです。

- 11, 群番号解読の時、表示された群番号を、自分のメモリーにコピーすることができます。
コピーしたい群番号が表示されたら、以下の操作を行ないます。

$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{\text{HOLD}} \Rightarrow \boxed{\text{COPY}} + \boxed{0} \text{ から } \boxed{9} \text{ のキー (0の場合)} \Rightarrow \boxed{\text{COPY0}}$

この例では、メモリー0に、コピーしていますが、以前に記憶されていたメモリーは、消されます。
消してもいいメモリーナンバーを選んで押してください。雑用メモリーをあらかじめ決めておくといでしょう。

- 12, CHの指定が、キー入力により行なえます。

例 50CHにセットする。 $\boxed{\text{C}} + \boxed{5} + \boxed{0} + \boxed{\text{MON}} \Rightarrow \boxed{\square} \boxed{50}$

例 123CHにセットする。 $\boxed{\text{C}} + \boxed{1} + \boxed{2} + \boxed{3} + \boxed{\text{MON}} \Rightarrow \boxed{\square} \boxed{123}$

CHが2桁の場合、キー入力も2桁で行なえます。

- 13, チャンネルの、メモリー、呼び出しができます。

G III SFXは、10個のチャンネルメモリーを持っています。

○メモリーする。

まず、記憶させたいCHに、セットします。

例 100CHにセットする。 $\boxed{\text{C}} + \boxed{1} + \boxed{0} + \boxed{0} + \boxed{\text{MON}} \Rightarrow \boxed{\square} \boxed{100}$

100CHでモニター状態となります。その後、例として、CHメモリー1に、記憶します。

$\boxed{\text{M}} + \boxed{\text{HOLD}} \Rightarrow \boxed{\text{SEt---}} + \boxed{1} \Rightarrow \boxed{\text{SEt-1}}$ 100CHがCHメモリー1に
セットされました。

また、通話状態(レディ)のとき、そのCHをメモリーしておきたい場合には、上記操作のほかに、
以下に示す方法でも行なえます。(50CHで通話していたとします。)

$\boxed{\text{MON}} \Rightarrow \boxed{\text{SEt---}} + \boxed{2} \Rightarrow \boxed{\text{SEt-2}}$ 通話していた50CHがCHメモリー2に
セットされました。

○メモリーしているCHに移る。(メモリーを呼び出す。)

先程、CHメモリー1に入れた、100CHを呼び出してみます。

$\boxed{\text{M}} + \boxed{\text{MON}} \Rightarrow \boxed{\text{SEt---}} + \boxed{1} \Rightarrow \boxed{\square} \boxed{100}$ 100CHでモニター状態となる。

また、CH設定と似た方法でも行なえます。CHメモリー2を呼び出してみます。

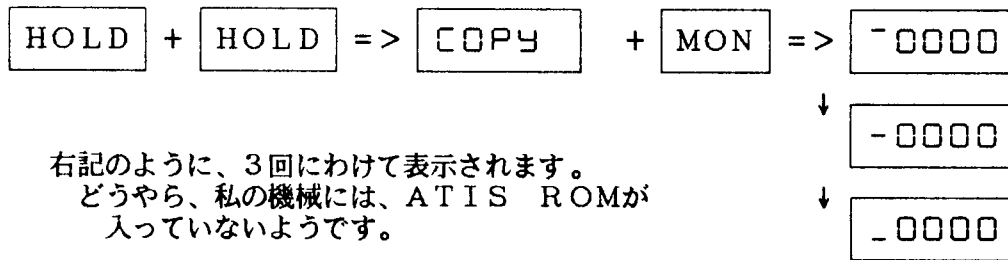
$\boxed{\text{C}} + \boxed{2} + \boxed{\text{MON}} \Rightarrow \boxed{\square} \boxed{50}$ 50CHでモニター状態となる。

ここで注意する点は、CH指定のときは、2、または3桁入力でしたが、1桁入力は、
CHメモリーの指定と解釈します。

メモリーセット、呼び出しとも、0から9までの10CHのCHメモリーが使用できます。

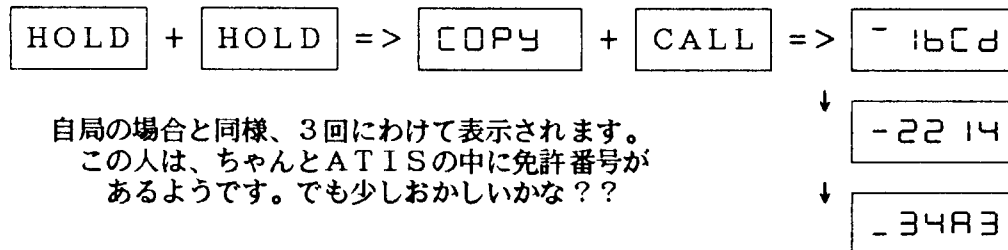
リセット、モニター、レディ、送信中のいずれの場合からでも、CHの移動が瞬時に行なえます。
また、設定した時のモードも同時に、記憶しています。CHメモリー呼び出し時にも、そのモードに
自動的に移ります。

14, 自局の免許番号の表示 現在使用している自局の免許番号を、表示させます。



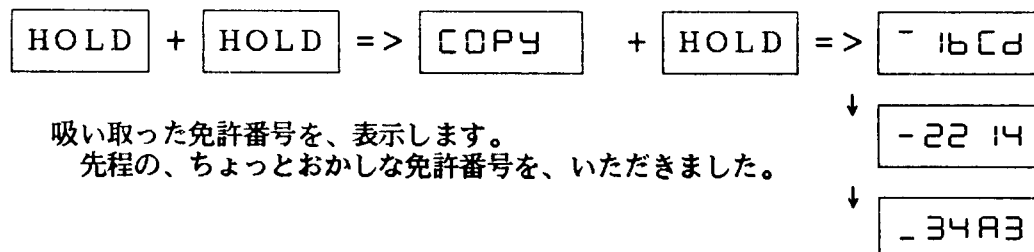
右記のように、3回にわけて表示されます。
 どうやら、私の機械には、ATIS ROMが
 入っていないようです。

15, 相手局の免許番号の表示
 受信した、ATIS信号の中の、免許番号を表示させます。



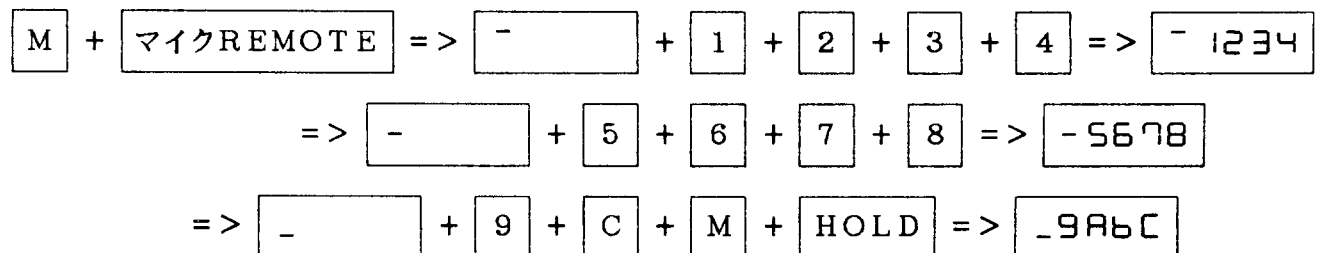
自局の場合と同様、3回にわけて表示されます。
 この人は、ちゃんとATISの中に免許番号が
 あるようです。でも少しおかしいかな??

16, 相手局の免許番号を吸い取る
 受信した、ATIS信号の中の、免許番号を、自局のものにしてしまいます。



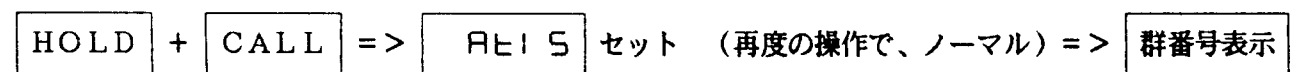
吸い取った免許番号を、表示します。
 先程の、ちょっとおかしい免許番号を、いただきました。

17, 免許番号を作る!!
 自局の免許番号をつくりだしてしまいます。



これで、免許番号は、123456789ABC となりました。
 キー入力の際のアルファベット入力は、群番号の場合と同じです。
 お互いに、GⅢSFX同士ですと、電話番号なども、1回のATIS信号で送れます。
 各自、活用方法などを考えてみてください。

18, 免許番号で待ち受ける
 リセット中、自局の免許番号と同じ局にだけ呼び出しを受け付けます。



群番号には関係なく、ATISのなかの、免許番号だけに答えます。
 あらかじめ、相手の免許番号を吸い取っておくか、記録しておいて免許番号を打ち込んでから使用して
 ください。なお、免許番号で待ち受けしている時は、他の待ち受けは無効となります。
 また、全群番待ち受けがセットされている場合は、そちらが優先されます。
 この表示は、モニターや、レディ状態から、リセット状態になった時に表示されます。

!!、なお、くれぐれも、悪用しないでください。!!

○ HOLD の操作方法 その1 HOLD+5～8について

HOLD を押しますと、 **F5678** のセット、解除、及び確認ができます。

↑
この時、表示の左端の桁は、Fの表示となっています。
この点について注目しておいてください。

19. ATIS信号のカット

PTTを握った時、離れた時、1分に1回送信されるATIS信号を止めてしまう機能です。

HOLD + **5** => **F5** セット **HOLD** + **5** => **F** 解除

セットされていても、リコールの時は送信されますので、呼び出しはできます。

20. 群番号の解読

受信したATIS信号の中の、群番号を表示させます。

HOLD + **6** => **F 6** セット **HOLD** + **6** => **F** 解除

21. 制御信号の妨害

制御CHに妨害を与える機能です。一般の制御CHでの無変調と違い、信号の上だけに混信を与えますのでリコールが打てなくなりません。信号を受信している側への妨害です。動作させるとよくわかりますが混んでいる場所では、TXのランプが点滅しています。そのたびに短い無変調を送信しています。なお、リセットの状態だけで機能が動作します。

HOLD + **7** => **F 7** セット **HOLD** + **7** => **F** 解除

22. 80CHモード、158CHモードの切り替え

呼び出しや、モニターの際のスキャンの幅などを、80CHモードにするか、158CHモードにするかをめまします。

HOLD + **8** => **F 8** 80CH **HOLD** + **8** => **F** 158CH

23. 全群番号の待ち受け

呼び出し、リコールを行なっているすべての信号に対して、受付をおこないます。

HOLD + **MON** => **ALL** セット **HOLD** + **MON** => **CUPI** 解除

免許番号待ち受けと同時にセットした場合、全群番号待ち受けの方が優先されます。

◎ スペシャル機能をすべてOFFとする。

SFXを早く使いこなしていただくためには、一つ一つの機能を十分理解していただくことと思います。そこで、すべての機能をOFFとしてから、操作されるとよいでしょう。

HOLD => **F5678** = 5～8のどれかが表示されている場合、そのキーを押して表示を消します。

↓
RST => **群番号表示** = 5～8のすべてが消えたところで、RSTキーを押しますと、HOLDの操作から抜けます。

24, スキャンスピードの切り替え

モニターサーチのスピードを変えます。セットで約80CH/3秒 解除で約80CH/12秒です。

HOLD + 1 + 1 => 11

25, 連続モードの切り替え

モニターサーチの時、1回りしてCHの最初になると、モードを一つ進めます。これにより、すべてのモードがつながったようになり、サーチを行いません。

HOLD + 1 + 2 => 12

26, メモリースキャン

CHの順番のスキャンではなく、CHメモリーのスキャンを行いません。

GⅢSFXには10個のCHメモリーがありますが、CHメモリーについては、12, 項を参照ください。

連続モードがセットされている場合、各モードごとの各CHをサーチしてゆきます。

解除の場合は、各CHメモリーが記憶しているモードに、順次切り変わります。

HOLD + 1 + 3 => 13

27, 空きCHサーチ

スキャンを空いているCHで止めるようにします。

あくまで、機械の空きCHレベルにより判断しますので、遠くで使用している場合、また、ブレイクタイムの時などで、使用中のCHで止まることもあります。

HOLD + 1 + 4 => 14

28, 全モード待ち受け

すべてのモードの制御CHを、リセット中に高速にスキャンしながら待ち受けします。

一度に8つのCHを聞いている訳ではないので、着信率は悪化します。

全モード待ち受けをしている局を呼び出す時には、連続リコールを使用してください。

HOLD + 2 + 1 => 21

29, スペシャルサーチ

モニターサーチをする際に、受信した局と、自分の待ち受けを比較しながら行いません。

信号の入感するCHでは、30秒間ATIS信号を待ちますが、信号が受信できなければ、次のCHにサーチを続けます。信号が受信できたなら、群番号を確認し、待ち受けと違えば、次のCHへ移ります。

HOLD + 2 + 2 => 22

30, 自動リザーブ機能

本機には、群番メモリー、CHメモリー、の他に、リザーブメモリーを持っています。

リザーブメモリーとは、群番、CHのメモリーとは独立して、群番とCHをペアでメモリーしておけます。

ここでは、自動的にこのメモリーに機械の判断でデーターを記憶させてしまう機能です。

以下の(一致群・全群)機能と組み合わせて使用します。

HOLD + 2 + 3 => 23

なお、次に示す全群、一致群番号のリザーブ機能は、この機能がセットされて始めて使用できます。

リザーブメモリーは、全部で8個ありますが、9個目を記憶させると、1個目がきえてしまいます。別項目に、リザーブメモリーについての詳細を記していますので、そちらを参照ください。

3 1, 全群番号リザーブ

上記の自動リザーブと組み合わせて使用します。セットすると、リセット中、スペシャルサーチ中に受信した、すべての群番号と、そのCHをリザーブに記憶してゆきます。
また、解除されている場合は、待ち受けセットされている群番号と一致した信号だけを、記憶してゆきます。

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{2} + \boxed{4} \Rightarrow \boxed{2 \ 3 \ 4}$$

HOLD 2 + 3, 2 + 4をセットしてリセット待機しますと、群番解読で次々と変わってゆく群番号を、後戻りさせて、そのCHに移動することができます。

3 2, PTTによる自動リコール

PTTを離れた時に、自動的にリコールを送信する機能です。
次に示す、PTTリコールタイマー制限と関係がありますので、以下の項目と組み合わせて使用してください。

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{3} + \boxed{1} \Rightarrow \boxed{3 \ 1}$$

このセットだけの場合ですと、PTTを握って、1分以上たたない場合には、リコールをしません。
以下の設定をしますと、このタイマーに関係なく、つねにPTTを離れた時にリコールをします。

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{3} + \boxed{2} \Rightarrow \boxed{3 \ 1 \ 2}$$

3 3, 多群番一括リコール

待ち受け指定をしている群番号を、すべてリコールする機能です。待ち受け設定は、10, 項に記してありますので、そちらを参照ください。
呼び出すCHは、リコールを打ったCHになります。

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{3} + \boxed{3} \Rightarrow \boxed{3 \ 3}$$

3 4, タイマーリコール

通話中(レディ)、自動的に、3分間ごとにリコールを打つ機能です。

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{3} + \boxed{4} \Rightarrow \boxed{3 \ 4}$$

3 5, 受信感度低減

無線機の受信感度を低下させる機能です。遠距離からの混信がある場合などに有効です。

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{4} + \boxed{1} \Rightarrow \boxed{4 \ 1} \Rightarrow \text{RX L のランプが点燈}$$

3 6, 送信出力低減

無線機を送信パワーを下げる機能です。遠距離へ妨害を与えている場合などに有効です。

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{4} + \boxed{2} \Rightarrow \boxed{4 \ 2} \Rightarrow \text{TX L のランプが点燈}$$

3 7, ローカルモード

通話する相手をローカルモードで呼び出します。呼び出された相手は、自動的に受信感度、送信出力低減状態になって呼び出されます。

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{4} + \boxed{3} \Rightarrow \boxed{4 \ 3} \Rightarrow \text{LOCAL のランプが点燈}$$

3 8, 1分通話モード

通話する相手を、1分通話モードで呼び出します。ただし、自局は、1分たってもリセットしません。

$$\boxed{\text{HOLD}} + \boxed{4} + \boxed{4} \Rightarrow \boxed{4 \ 4} \Rightarrow \text{1-MIN のランプが点燈}$$

○ その他のHOLD機能

39, 切断信号

セットしている群番号で、切断信号を送信します。ここでいう切断信号とは、自局に暗証コードのない場合のことです。暗証コードが判らないため、すべてに該当するコードを送信します。
送信終了まで、約、2分間かかります。

HOLD

 +

9

 =>

□□ヒ

 =>

群番号表示

 TX のランプが点燈し、Sメーターが振れっぱなしになる。

また、通常の切断信号（通話状態から、自局と同じ暗証コードを持つ局だけをリセットさせる）を送信する場合には、本体側の、ENDキーを、1秒間以上押します。

この場合は、自局の持っている暗証コードのみで送出します。

40, 動作音の変更

キーの受付動作音の大きさを変えます。HOLDに続いて、0のキーを数回押すことにより、大、小、消しの状態が、交互に現われます。

HOLD

 +

0

 +

0

 + . . . =>

F	H
---	---

 .

F	L
---	---

 .

F	□
---	---

動作音大 動作音小 動作音消

41, 目覚し時計

ノーマルにもある目覚し時計の機能です。操作方法も、同じです。

HOLD

 +

C

 =>

□□	-	□□
----	---	----

 +

C

 +

0

 +

8

 +

0

 +

0

 =>

□8	-	□□
----	---	----

上記の例では、8時間後に、ビービーという音を発して、時間になったことを知らせます。

また、表示が、点滅状態になっていた場合は、停電がありましたので、時間が狂っているということです。

42, タイマーカット

この機能は、単にタイマーを止めるだけではなく、使用状況に応じて、機能がさまざまに変化します。

HOLD

 +

M

 =>

□□ヒ

 タイマーカットON （再度でOFF）

ヒ	-	□□
---	---	----

A, 呼び出し、及び、着信の時

タイマーカットがセットされている場合は、補足（呼び出しや、着信で、表示が点滅している時）の後、自動的にレディモードになります。

タイマー動作セットの場合には、30秒間、補足状態のあと、リセットします。

また、この間に、HOLD, REMOTE, PTTなどで、レディモードに固定することもできます。

B, 固定モニターの時（固定モニターとは、CH指定や、リセットより、1回目のモニターキーでなる状態）

タイマーカットがセットされている場合には、リセットしない限り、そのCHにいます。

タイマー動作セットの場合には、なにも受信しなくなってから、15分間たつと、自動的にリセットします。

C, モニタースキャンの時

タイマーカットがセットされている場合には、入感のあったCHで、固定モニターに移ります。

タイマー動作の場合には、入感のあるCHを、30秒間傍受し、続けて次のCHにスキャンを続行します。ただし、スペシャルサーチとは違い、ATIS信号を受信しても、すぐにCHが変わることはありません。

（スペシャルサーチがONになっていれば、ATIS信号の判断を行いません）

この場合も、HOLD, REMOTE, PTTにより、CHを固定することができます。

D, モニターから、群番一致の場合には、15分間の補足状態があります。
 タイマーカットがセットされている場合には、補足状態のあと、レディモードに移ります。

タイマー動作の状態で、なおかつ、スペシャルサーチがONの時には、15分間の補足状態のあと、スキャン状態に戻ります。

タイマー動作の状態の時は、15分間の補足状態から、固定モニターに移ります。
 なお、固定モニターでは、無信号状態のとき、15分間でリセットしますので、なにかの間違いにより、呼び出された時でも、トータル30分間でリセットに戻ることになります。

E, リセットから、PTTや、CALL+なにかのキーで通話CHに移る時
 タイマーカットがセットされている場合には、特に変化はありません。

タイマー動作の状態では、1回目の発呼信号は、送信しません。しかし、2回目にPTTを押す時に、
 だけ、PTTによる自動リコールを行ないます。
 この機能により、たまたま開いたCHが使用中であっても、そのままリセットすれば、
 不要な呼び出しを減らすことができます。

43, 特種オプション群番号

新モードの機種には、新たに、A, B, H, L, P, Eなどを頭文字にした特種群番号がもうけられて
 いますが、実際には、そのような文字のコードの信号が出ている訳ではなく、すべて、数字の'0'から、
 アルファベットの'F'までのコードで送られています。

FF000	=>	E-CODE
F0000	=>	P-CODE
F0003	=>	H-CODE
F0005	=>	L-CODE
F0006	=>	A-CODE
F0009	=>	B-CODE



このような構成になっています。
 規則性としては、先頭が'F'であること、
 E-CODEを除いて、中が'000'であること
 のようですが、まだ空きがあります。

そこで、G III SFXでは、勝手に空きのコードに、コードネームをつけてしまいました。

F0001	=>	N-CODE---
F0002	=>	Y-CODE---
F0004	=>	r-CODE---
F0007	=>	T-CODE---
F0008	=>	G-CODE---
F000A	=>	U-CODE---
F000B	=>	-CODE---
F000C	=>	C-CODE---
F000D	=>	d-CODE---
F000E	=>	F-CODE---

↑各自で好きなコード名をつけてください↑

これらの群番号は、あらかじめメモリーにある訳ではなく、そのコードに該当する群番号を打ち込むと、
 上記のように表示されるものです。

入力例

M	+	メモリーさせるNo.	+	C	+	MIC END	+	0	+	0	+	0	+	末尾
---	---	------------	---	---	---	---------	---	---	---	---	---	---	---	----

末尾に該当する部分に、0~Eの文字にあたるキーを押せば、上記に記してあるコードが表示されるはずですが。

特に、Y-CODEなど、どんな通信目的に使用されるかは、推して知るべし。

大いに利用してください。また、他の機種では当然表示されませんので、あまり意地をはらないように、